

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 30 年度第 1 回高松市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成 30 年 7 月 31 日(火) 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
開 催 場 所	高松市防災合同庁舎 302 会議室
議 題	(1)会長・副会長の選任について (2)高松市の廃棄物減量・資源化の状況について (3)食品ロス対策に関する取組について (4)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	8 人 生嶋暹、今村幸一、高橋一成、中澤悦子、馬場加奈子、古川尚幸、細谷芳久、松山千恵子
欠 席 委 員	5 人
傍 聴 者	0 人 (定員 10 人)
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課 (Tel839-2388)

審議経過及び審議結果

(1)会長・副会長の選任について

会長に古川尚幸委員を推薦する意見が出され了承された。
副会長に今村委員を推薦する意見が出され了承された。

(2)高松市の廃棄物減量・資源化の状況について

(事務局説明)

(委員)

ごみのリサイクル量の現状維持という目標に対して、年々リサイクル率が下がっている。目標との乖離が拡大して、士気が上がらないということになればよいが。

(事務局)

リサイクル率を上げる取組と民間の資源化ルートの把握の 2 点を課題として認識している。

(委員)

封筒は、資源ごみ、又は燃やせるごみのどちらか。

(事務局)

窓あき封筒は、ビニール部分を取れば、資源ごみとして出すことができる。

(委員)

ジュースの紙パックは、洗って資源ごみとして出すものか。

(事務局)

洗って資源ごみとして出してもらいたい。

(委員)

ごみ分別アプリの配信について、住んでいる町を見るために、画面をスクロールしなければならず、使いにくい。またクイズ問題のところに写真を利用してはどうか。

「地球にやさしいオフィス」、「地球にやさしい店」登録制度について、知らなかった。自分も店をしているので、どういったものか勉強したい。

小学校や町に環境委員のようなサポーターを育てて、ごみの分別に関する情報を発信してもらえればよいと思う。また、コミュニティセンターを使って、環境問題等の勉強会を行うとよいと思う。

(事務局)

ごみ分別アプリについては、住んでいる地域を設定すると、ごみ出しの通知を受け取ることができる。アプリは、一から作るとコストが高いため、自治体向けの既製アプリを高松市用にして、配信しており、カスタマイズは、難しい状況である。

「地球にやさしいオフィス」や「地球にやさしい店」については、周知が十分できていなかったと思われるので、今後考えていきたい。

環境学習については、学校に限らず、住民からの要望に応じて、出前講座を行っている。

また、地区ごとにリサイクル推進員を委嘱しており、ごみの分別方法の周知や指導、ごみステーションの管理等をしていただいている。

(会長)

「地球にやさしいオフィス」や「地球にやさしい店登録制度」への登録は、事業者にメリットがあるのか。登録事業者を市のHPで紹介しているのか。

(事務局)

HPで紹介しているが、事業者がメリットを感じているかというところは少し難しいところがある。周知の方法等を、今後検討していかなければならないと思う。

(会長)

企業や店が、メリットだけで動いているとは思わないが、何かメリットがあったほうが、より広がると思う。例えば、広報でコーナーを作る等、考えていただきたい。

(事務局)

特に優秀な取組をされている事業者について、年度末に表彰し、HPで紹介している。

(会長)

HPは見に行かないと見るできないので、そういったところも少し考えていただければと思う。

(委員)

生ごみ減量化助成事業の実績はいくらか。

一般廃棄物の処理責任は市にあるので、リサイクル業者に渡したらよいというのではなく、リサイクル業者に渡した後、どうなっているのかを、把握できているのか。昨今の紙相場は、中国のインシアチブによって乱高下している。採算があわなくて処理ができず、不法投棄等色々なことが、世の中に起っている。

(事務局)

平成 28 年度の実績で、生ごみの堆肥化容器が 133 基、生ごみ処理機も 133 基、計 266 基の補助を行っている。生ごみ堆肥化容器は、平成元年からの累計で 28,095 基、生ごみ処理機は、平成 10 年からの累計で 6,530 台の補助を行っている。

民間で処理されているものについて、リサイクルルートを最後まで把握するという事は、できていない。相場が外国の動向によって、乱高下するという事を、我々も課題だと思っている。

(委員)

発泡スチロールも以前は、引取手多数であったが、今は引取手がいない。リサイクル処理に関しては、その時々ビジネスに乗じて行っている、できなくなるときがある。ぜひ、業者が最終的にどう処理をしているのかを、調べていただいたほうがよい。

(会長)

市場までは、市としてどうしようもないと思うが、適切に処理しているかどうかの確認というのは、市にとってもリスクマネジメントになると思う。

私は、段ボールコンポストを使っており、非常によいと思っている。燃やせるごみをごみステーションに持っていく回数が減り、ごみが軽くなった。高松市としては、段ボールコンポストを推奨できないのか。

(事務局)

推奨している。段ボールを使った生ごみ処理機を作るといった環境学習も設けており、一般廃棄物処理基本計画の中にも、段ボールコンポストの紹介を取組の一つとして記載している。

(委員)

できた堆肥を、各家庭では何に使うのか。

(会長)

例えば家庭菜園などがある。

(委員)

各家庭がどのように使っているのかなど意見を聞いてみたい。

(委員)

地球温暖化防止活動推進の団体があり、そこに照会すれば、段ボールコンポストを使用している成功事例、失敗事例などの話を聞けると思う。

(3) 食品ロス対策に関する取組について

(事務局説明)

(委員)

実態調査のサンプリングの仕方について説明はあるか。

(事務局)

例えば、住宅が多い地域や田畑が多い地域など、代表的な地域を選び、その地域のごみステーションから燃やせるごみを集めて、調査することを考えている。

今回の調査は、国の事業を利用して行うので、国の案などを参考に、調査方法を研究していく予定である。

(委員)

地域ごとの割合などが分かるような形であれば、地域の活動にもデータが使える。

(事務局)

ごみをどこからとりましたというのを言っていけるものかどうかなど、検討させてもらいたい。

(委員)

ごみの数が少なく、地域が限られていると、バランスが偏るのではないか。

(会長)

国の方針や、予算の制約などもあると思うので、色々な所からサンプリングを行うことは難しいと思う。可能であれば、当方の研究室にも手伝わせてもらいたい。

アンケートについては、香川県が県民アンケートを行っているが、それは参考にしているか。

(事務局)

県のアンケートは参考にしていない。

(会長)

アンケートは、設問に同じものを使えば比較できるので、県と同じものを使っておけば、県と市の比較が可能になる。また、質問の仕方によって、回答者の反応の仕方が変わってくる。

(事務局)

他市の設問を参考にしているが、県の設問についても参考にしたい。

(委員)

リサイクル推進員は何人いるのか。

(事務局)

推進員は、地区ごとに3人程度、全体で130人程度。

(委員)

推進員が誰かを調べるとき、名簿などがあるのか。

(事務局)

名簿の公表はしていないが、その地区の衛生組合協議会長が推進員になっている。

(委員)

協議会長については、機関誌の「衛生だより」に掲載している。

(会長)

食品ロス対策に関する取組についてのアンケート結果について、SDGsに関する取組を記載した回答があり、これについて少し教えてもらいたいのですが。

(委員)

民間会社とコラボイベントを行っている。四国で何ができるのかというところで、SDGs四国88を立ち上げ、子どもと一緒に取り組んでいる。

(4) その他

(事務局説明)

以上